令和６年度　小・中・養護学校

人権教育の実践収録

千　　曲　　市
千曲市教育委員会
千曲市学校職員会

はじめに

千曲市学校職員会長　西澤　真一

実施される時期は学校によって異なりますが、どの学校でも人権週間や旬間が行われていることと思います。本校でも２学期半ばに「なかよし旬間」が行われました。朝の音楽が「なかよし旬間」のテーマ曲に変更され、子どもたちの発達段階に合わせた各学年のスローガンのもと、友達のよいところを見つける活動や人権にかかわる学習などが行われました。私も、その期間中に校長講話の時間をいただき、人権について全校の子どもたちに向けお話をさせていただきました。

この校長講話では、私からの一方的なお話ではなく、子どもたちが自分なりにできるだけ人権について考えることができるよう、対話式のお話の時間にしようと考えました。今年は、アニメ「ドラえもん」に登場する「ジャイアン」に視点を当ててのお話です。

子どもたちには、最初にジャイアンの印象を聞きます。乱暴で意地悪で自分勝手、いつものび太くんがいじめられている、そんな印象を子どもたちはもっていたようです。そこで私は「ジャイアンとのび太くんが仲良しなのは、なぜなんだ？」と子どもたちに問いました。

この問いに対して、少し時間を設け、子どもたちが近くのお友達と会話ができるようにしました。すると、少しずつジャイアンのよさが子どもたちから聞かれ始めました。

私は、そんなジャイアンのよいところを見つけようとする子どもたちに対して、のび太くんがランドセルを失くしてしまったときに、辺りが暗くなるまで一緒に探してくれたこと、のび太くんが不良に絡まれたときに体を張って守ってあげたこと、妹のジャイ子を思いやる姿、など、粗暴なジャイアンとは違う姿を紹介しました。

そして、お話の終わりにもう一度ジャイアンの印象を聞きました。すると、乱暴で意地悪な時もあるけど、実は友達を放っておけない面倒見の良い人、本当は照れ屋さん、実は優しい人だ、といったような、最初に抱いていたジャイアンの印象が変わった子どもたちの姿がありました。

最後に、次のように話をまとめました。

「『その人のことをちゃんと知ると、その人に対して思うこと』が変わってくるんですね。ジャイアンがのび太くんにしている人の体を傷つけることや、自分に従わせること、これは学校や社会の中ではやってはいけないことです。なぜなら、それはその人の幸せを奪ってしまうからです。でも『困っている友だちがいたら放っておけない』のような、『友達の役に立つ素敵なジャイアン』は大歓迎だし、それを知っているからこそ、この二人はいつも仲良しなのかもしれないですね。」

人権を考える時、私たちにはその事象や関わっている人々などについて多面的にとらえ判断する力が必要です。本書は、そんな資質・能力を身につけていくために、各学校で行われた事例がたくさん掲載されています。子どもたちが人権感覚を高め、幸せな未来を大人だけではなく子どもたち自身もつくっていくことができるよう、私も本書の実践から学びたいと思います。

最後に、事例をまとめてくださった先生方、事例を束ねてくださった千曲市関係部局の皆様に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

令和７年２月

目　　次

１．「今年は巳年！みんなでヘビをつくろう」　千曲市立屋代小学校あんず３組……１

２．「三年元気組」　千曲市立東小学校３年……３

３．「どんな言い方がいいのかな」　千曲市立埴生小学校１年……５

４．「人間コピー」　千曲市立埴生小学校３年……７

５．「自分のいいところ友達のいいところ」　千曲市立埴生小学校５年……９

６．「三年元気組」　千曲市立治田小学校３年……１１

７．「友だち屋」　千曲市立八幡小学校３年……１３

８．親切・思いやり「思いやりのかたち」　千曲市立戸倉小学校４年……１６

９．「わたしはこんな友だちが好き！」　千曲市立更級小学校３年……２０

１０．「なかよしゲーム」　千曲市立五加小学校２年……２２

１１．「色えんぴつをわすれちゃった」　千曲市立上山田小学校３年……２４

１２．「思いやりのあることば」　千曲市立屋代中学校……２７

１３．自分の人権も他者の人権も尊重できるようになる
～部落差別解消を考えることを通して～　千曲市立埴生中学校３年……３０

１４．「すべての人が気持ちよく生きることができる
社会を目指して」　千曲市立更埴西中学校３年……３２

１５．「渋染一揆」　千曲市立戸倉上山田中学校１年……３６

１６．「その時歴史は動いた　人間は尊敬すべきものだ
～全国水平社・差別との闘い～」　千曲市立戸倉上山田中学校２年……３７

１７．「あなたの決断
～排除や差別はどのように起こる？～」　千曲市立戸倉上山田中学校３年……３８

１８．「ジブリランドへレッツゴー」　稲荷山養護学校小学部……４０

主題名『今年は巳年！みんなでヘビをつくろう』

千曲市立屋代小学校あんず３組
（自閉症・情緒障害特別支援学級）

1　主題設定の理由

あんず３組は１～３年生の６名が在籍している特別支援学級である。３学期の始業式の校長講話で、「今年は巳年だね。みんなもこれからさらに成長して、ヘビのように新しい自分に脱皮しよう」「３学期の計は始業式にあり。３学期は短いから１日１日を大切にしよう」という話を聞いて、「ヘビの絵を描きたい」「ヘビってすごい」「もっとなわとびができるようになりたい」「僕も脱皮したい」と児童たちは話していた。また、１年生の児童が制作した紙粘土のヘビを見て、２年生と３年生の児童が、「みんなで大きなヘビを作ってみたい」と制作したい願いを話した。

児童たちは、２学期の後半から授業後や休み時間に遊んだり、清掃で協力して雑巾がけをしたり、小集団の中で一緒に楽しんだり、協力して活動したりする姿が見られるようになった。ただ、学級のみんなで一つのものを協力して制作したり、制作したいと児童が願ったりする姿はこれまで見られなかった。そこで、本校のグランドデザインでも位置づけられている３つの重点のうち、「大好き友だち」をさらに子どもたちが実感を得られるように本主題を設定した。

2　主眼

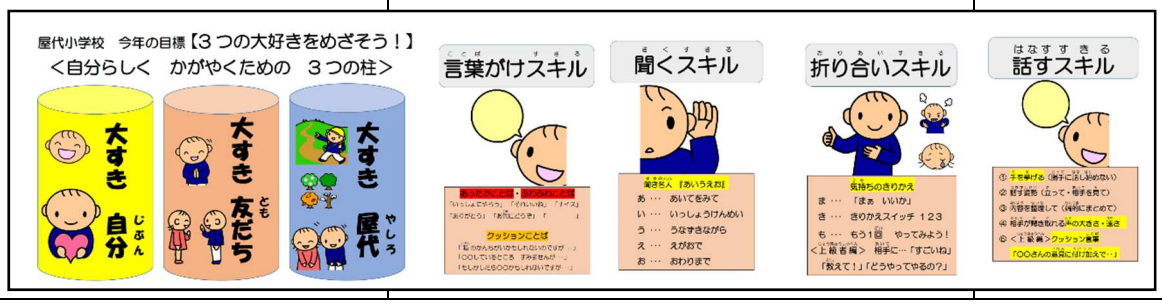
聞く、伝える、折り合いをつける、話すといった自立活動の視点に基づいたスキルを活用して、友だちとアイディアや意見を伝えたり、協力したりしながら制作活動に取り組んでほしい。

3　指導上の留意点

・どんなヘビにしたいか、イラストや具体物などの視覚支援を手がかりにイメージを全体で共有して制作に取り組めるようにする。
・児童がアイディアを出したり、協力したりしたことはその場で具体的に称賛する。

4　展開および授業記録の大要

	教　師	子どもの反応	備考
導入	○校長講話を振り返り、みんなで紙粘土を使ってヘビを制作することを伝える ○本時の目標と活用してほしいスキルを提示する	・今日は「大すき　友だち」なんだね ・ちゃんとお話を聞いているから、聞くスキルばっちり使っているよ	３つの柱の掲示 スキルカード



	どんなヘビにしたいか、自分の意見を出し合おう		
展開	○どんなにヘビにするか相談する ・ヘビのイラストや具体物を提示する ・意見を黒板に書いてまとめる ・アルミワイヤーでヘビの長さや形を決める	・前に作ったヘビより、もっと長くしたいな ・顔はコブラみたいにするのはどうかな ・○○さんのアイディアいいね。コブラ格好良さそう ・僕はお腹を作りたいな ・尻尾は私に任せてよ ・長さは３ｍくらいがいいな ・体は波みたいにウネウネしたいね	イラスト、見本のヘビの制作物 アルミワイヤー、ハサミ
	○ヘビを制作する ・友だちと協力したり、相談したりしながら制作する姿を称賛する	・○○さん、一緒にやろう ・先に尻尾をつけていいよ ・僕、粘土苦手だけど、ちょっとだけやってみたい。やってもいい？ ・針金が見えているから、粘土をもっと付けよう。○○さん、手伝ってほしいな ・お腹が太くなっちゃったからダイエットしよう。この粘土、顔のパーツに使っていいよ ・コブラだから、顔や首のところは、広くしたいな。こんな感じかな？ ・いいじゃん、格好いい！	紙粘土、ビニールシート
	○ヘビと記念写真を撮影する	・完成したから、写真撮ってほしいな	・デジタルカメラ
終末	○授業の振り返りをする	・粘土が苦手だったけど、みんなと作ることができて楽しかったな ・話すスキルや言葉がけスキルも使ったよ ・一緒にやろうと誘ってもらって嬉しかった ・あんず組で作ったから、ヘビの名前は「あんずコブラ」はどうかな ・乾いたらみんなでまた色を塗りたいな	

5　反省

子どもたちは協力しながら制作活動に取り組んだ。制作の後半にヘビに名前を付けたいと思い、自分たちで名前を自然に相談して決めていく姿に、自分の意見や考えも伝えながら、友だちのことも尊重する姿勢が見られた。授業後に「あんずコブラ」の色づけについて、それぞれ塗りたい色を出した後に、ある児童が、「そうだ、虹色はどうかな。みんなの色が使えるよ」という意見を出した。みんなの考えを包含してくれるアイディアを考え、伝える姿に子どもの成長を感じた。

主題名『三年元気組』

千曲市立東小学校三年

１　主題設定の理由

中学年になると児童は、他者との比較において、自分のことをある程度客観的に見ることができるようになる。しかし、自分の特徴を自覚することは難しく、好きなことや得意なことを自分の長所として認識することはあまりない。そこで、他の人々の多様な個性や生き方にふれ、憧れや希望を抱ける機会をふやしていけるよう主題を設定した。

２　主眼

友だちの言葉から自分のよさを見つける「ぼく」の姿を通して、自分のよさを見つけ、伸ばすためには、どんな気持ちが大切か考えさせ、自分の特徴に気づき、長所を伸ばそうとする実践意欲を育てる。

３　指導上の留意点

板書の際は、「ぼく」の気持ちを、自分自身のよいところについての考えと、よいところを見つけてくれた周囲の人への思いなどに分けて書き出し、視覚的に捉えられるようにする。

４　展開及び授業記録の大要

	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導入	○今、自分ががんばっていることを発表する。	・サッカークラブでレギュラーになる。 ・係の仕事で、みんなが。困らないようにする。 ・がんばっていることが見つからない。	・がんばっていることが「ある」か「ない」かを想起させ、ある児童には、取り組んでいるときの気持ち、ない児童には、どうしてないと思うのか考えさせておく。	７	
展開	○資料「三年元気組」を読んで話し合う。	**発問①：春人に、「友広くんは、スピーチで何を話すの？」と聞かれたとき、どうして「ぼく」は、困っていたのでしょう。** ・「ぼく」には、「がんばりじまん」がないとおもっていたから。 ・ひとよりも上手にできるものがなかったから。 ・「すき」と「がんばり」は違うと思っていたから。	・１時間を通して、主に「ぼく」の気持ちの変化を追っていくため、初めの「ぼく」の気持ちをしっかり押さえる。 ・導入で、がんばっていることが見つからない児童には、「ぼく」の気持ちは共感しやすいので導入と結び付け、自我関与しやすくする。	１０	
中心発問：「読書」のことをスピーチで話そうと決めたとき、「ぼく」はどんなことを思っていたでしょう。					
		・好きなことを続けると、それが「がんばりじまん」になるんだな。 ・もっといろんな本を読んでみたい。 ・これからもっと読書好きになって、たくさん成長したい。	・「ぼく」が友だちや先生の励ましから、自分のことを肯定的に見つめることができるようになったことに注目させ、「ぼく」の心の変化を、多面的・多角的に考えさせる。	１５	

		・みんなが「ぼく」の読書好きを認めてくれたのがうれしい。 ・みんなの期待に応えたい			
	発問②：あなたのよいところは、どんなところですか。見つけましょう。	・ピアノが弾けること。5歳から続けている。最近、いろんな曲が弾けるようになってうれしい。 ・誰とでもすぐに仲良くなれること。初めて会う人でもすぐに話ができて、打ち解けられる。これからも友だちを増やしたい。 ・きれい好きなところ。掃除の時間が楽しみで、きれいになるとすっきりする。	・学習カードに自分の良い所を書く時間を設定する。 ・自分の良い所を発表し、全体で共有する。	１０	
終末	○本時の学びを振り返る。	・自分の良い所を見つけることはなかなか難しいけど、友だちが気づいて教えてくれたので分かった。なのでうれしかった。 ・自分の良い所をもっと良くしていくことが大事だと思う。これからの生活でもっと伸ばしていきたいと思う。	・本時の学習を振り返り、振り返りを発表する場を設ける。 ・児童の発言を板書し、全体で共有する。	３	

6　反省

・「ぼく」の気持ちを考えることはできたが、そこから関連させて「あなたのいいところ」を見つけることに躓いている児童が比較的多かった。児童によっては自分のいいところを言葉にして書き出すことが恥ずかしいという子もいた。
・そのため、友だちの良い所をお互いに伝え合う場面を設け、「こういうことを自分のいいところにしてもいいんだ」と実感することができ、少しずつ自分のいいところに目を向けることができるようになっていった。
・11月のなかよし旬間中に行った授業であるが、その後旬間中に「自分」や「友だち」のいいところを見つけ、小さな紙にかいて掲示していく活動をおこなった。書かれた紙が増えていくたびに、教室が温かい雰囲気になり、授業を行った成果があった。

7　資料

どうとく③　きみがいちばんひかるとき　光村図書

主題名『どんな言い方がいいのかな』

千曲市立埴生小学校　１学年

1. 主題設定の理由

入学して８ヶ月が過ぎ，友だち同士のつながりもふえてきた。お互いに声をかけ合って遊んだり、今までになかった人間関係が広がったりしてきている。一方で，何気なく使った言葉からトラブルになる場面も出てきている。相手の気持ちを考えた言葉づかいの大切さを感じてほしいと考えて，本主題を設定した。

２．主眼

自分の伝えたいことを一方的に押し通すのでは無く、相手の気持ちを想像しながら言葉を選んだり、言い方を考えたりすることを通して、友だちとのよりよい関係づくりを進めていくことができる。

３．指導上の留意点

授業だけでなく、日常生活での実際の場面でどうするかを考えられるよう留意する。

４．展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導入	１　担任のロールプレイ３種類を見る。 ①何も言えずに困るパターン ②自分の意見を押し通すパターン ③理由をふまえながらきちんと説明するパターン	・なんか、かわいそう… ・もう少しやさしくしてあげたらいいのに ・いいね。分かりやすい。 ・真似できそう	○【どんな言い方をしたら自分も相手も気持ちよく過ごせるのかな】	１０	
展開	２　ペア活動で 【言葉を選ぶ】 【言い方を考える】 の２点から実際にやりとりをしてみよう	・「～」は言われてうれしかった。 ・こんな風に言ったら良いんじゃないかな。 ・わけをはなすと気持ちが良いね。 ・それは自分もそう思う。	・日常の生活で自分が言われて感じた気持ちを考えたり。伝え合ったりする。 ・やりとりが難しいペアには担任が入りながら考えを深めるようにする。	３０	ワークシート

終末	3　これからの学校生活でどんな言葉を使っていくかを考える。	・理由（わけ）があると、「あ～（納得）」って思える。	・明るく前向きな雰囲気で終われるように心がける。	5	

5．子どもの姿から

・ただワークシートで考えるだけでなく、ロールプレイを取り入れたのが有効だった。日常生活を思い出しながら、必要感のある内容になったのがよかった。また、自分の考えをまとめることが苦手な児童にとっては、友だちとやりとりをする中で自然と振る舞うことができた。

6．資料

あけぼの（低学年）より

人権教育実践記録　主題名『人間コピー』

千曲市立埴生小学校３年

１　主題設定の理由

３年生は、元気で明るく、仲の良い友だちと積極的に関わることができる児童が多い。休み時間は外で元気に体を動かし、ドッチボールやサッカーなどして皆で遊ぶ姿も多く見られる。だが、クラス内で友だちと関わって行動する場面では自分に自信がもてないためか、なかなか行動に移せなかったりする姿が見られる。

子どもたち同士で協力して生き生きと取り組みながら自己肯定感を高め、友だちとのよりよい関係づくりができるようになってほしいと考え、本主題を設定した。

２　主　眼

グループの課題達成に向けて１人ひとりがどう行動したらいいかを考えることを通して、自尊感情を高め、進んで友だちと関わっていこうとする態度を育てたい。

３　指導の留意点

・課題解決のルールについては、あらかじめしっかりと確認して、スムーズに活動できるようにする。

・絵のできあがりの正確さを競うよりも、それぞれの子どもが十分に活動できたかを、ふりかえりの視点にする。

４　展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導入	１ゲームのやり方を確認する	・どんなゲームをやるのかな。楽しそうだな。 ・順番に行くんだな。一番最初に行きたいな。上手にコピーしたいな。 ・班の友だちと相談して、見に行く順番を決めよう。	①班ごとに机を囲んで座る。 ②画用紙を配り、各自に鉛筆を用意させる。 ・「今日は、みんながコピー機になってやるゲームです。教室の外に絵が貼ってあります。その絵を見てきて、わたされた画用紙に、そっくり同じように描いてください」	１０	・画用紙
展開	２ゲームを実施する 結果確認	・絵を忘れてしまいそうだな。しっかりと覚えて行こう。 ・ちょっと忘れちゃったな。友だちに聞いてみよう。	「では、始めます。」 （終了５分前になったら知らせる。） ・終了の合図をし、もとの絵を見せる。	２０	・もとの絵（廊下）
終末	３ふりかえり まとめ	・わたしもここの部分が描けて嬉しいな。 ・またやりたいな。今度はもっと協力したいな。	・それぞれのグループの良いところ、１人ひとりのよいところに焦点を当てて進める。 ・子どもたち同士で気付かなかった場合は、担任が紹介する。	１５	・ふりかえりシート

５　授業記録の大要

	教師	児童の反応	時間
導入	・これからみんなでゲームをします。 「人間コピー」というゲームです。 （ゲームの説明）	・やったー。 ・え？どんなゲームなのかよく分からないなあ。 ・何回も行っていいんですか？ ・さいしょに自分が行きたい。次の人は…。 ・ルールをちゃんと守ってやるんだよ。 ・みんなで協力してやろうね。	１０
展開	（ゲームの実施） ・見に行くときの注意が３つあります ア 何度見に行ってもかまいません。 イ １回に見に行く人は班で１人です。 ウ 見に行くときに、何かを持って行ってはいけません。 「時間は２０分です。」 （質問があったら受ける）	・みんなで協力すると早くできるなあ。 ・２０分だからみんな焦ったけど本物そっくりに描いてみると面白い。 ・みんな楽しく絵を描いている。 ・みんなが「違う」といったけど、他の友だちがそうだよと言ってくれて嬉しい。 ・みんなが自分から「見に行く」や「私が描ける」と言って良くできた。 ・みんなで仲良くできた。	２０
終末	①ふりかえりシートを配り、話をしないで記入させる。 ②グループ内で書いたことを順に発表する。 ③互いに気付いたことを話し合う。	・友だちと協力して、あまり似てなかったけどいろいろ描けた。 ・人間コピーはみんなと協力し合いのゲームだと思った。 ・班のみんなと楽しくできた。楽しかった。 ・班のみんなと仲が良くなった。	１５

６　反省

本時の活動では、協力をしない（互いに関わらない）と解決ができない課題や手順、ルールを設けている。また活動後にふりかえりの時間を設け、シートに文字を書くことにより、自分の気付きをより明確にできるようにした。そして、それぞれの気付きをグループやクラス全体で共有し、賛成した・励まし合った等、互いの関係性が進んだり、グループの雰囲気が和らいだりすることに繋がってきていると感じる。またこのような活動に取り組むようにしていきたい。

７　資料

・学校グループワーク・トレーニング
　坂野交信監修　日本学校グループワーク・トレーニング研究会著

人権教育実践記録　主題名『自分のいいところ友達のいいところ』

千曲市立埴生小学校５年

１　主題設定の理由

自分にはいいところがないと思い、自分に自信がもてないで自尊感情が低い子がみられる。クイズ形式で友達からいいところを教えてもらう活動を楽しみながら行い、自尊感情を高めていく一助にしたいと本主題を設定した。

２　主　眼

自分にはいいところがあまりないと自信をもてないでいる子ども達が、「誰でしょう？クイズ」を考えたり、友達から自分に書いてもらったカードをみたりすることで、自分の良さを実感することができる。

３　指導の留意点

・事前にクラス全員の友達のいいところを書き、それのカードを子どもごとにまとめておく。

４　展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導入	１自分のいいところを考える。	・宿題を忘れない ・サッカーがうまい ・給食をたくさん食べる。	・「自分のいいところを考えましょう。」 ・何人か発言を促す。	５	・学習カード
展開	２誰でしょうクイズをする。 ３自分に書いてもらったカードを見る	・○○さんのことかな。 ・△△さんかな。 ・わからない。だれだろう。 ・封筒を受け取り、カードを見る	・「誰でしょう？クイズをします。」 ・ルールを説明し、問題を出題する。 ・間違えて答えた子の答えも認める。 ・「自分のカードの封筒を見てみましょう」 ・一人一人にカードの入った封筒を渡す。 ・「どんなことを書いてもらってあるかな。」	２０ １０	・いいところカード
終末	４本時をふり返る。	・自分が思っていないことを書いてもらってうれしかった。	・「クイズをやったり友達からのカードを見たりした感想を書きましょう。」	１０	・学習カード

５　授業記録の大要

	教師	児童の反応	時間
導入	・「自分のいいところを考えて、学習カードに書きましょう。」 ・何人か指名した。	・声が大きくて、発言できる。 ・ハンカチやティッシュを忘れなかった。 ・サッカーのシュートを決められた。 ・自分のいいところはあまりない。	５
展開	・「これから誰でしょうクイズをします。封筒の中のカードを一枚一枚読むので、わかったら手をあげてください。」 ・そうじを一生懸命やっている。いつも宿題をきちんと出している。（など） ・「全員のクイズをやる時間がないので、一人一人の封筒を渡します。カードにどんなことが書いてあるか、見てください。」 ・封筒を渡す。	・○○さんのことだ。 ・△△さんかな。 ・誰だろう？むずかしいな。 ・あっ、すぐわかった。 （封筒を受け取り、静かにカードに見入っていた）	２０ １０

終末	・「今日の学習をふり返って感想をカードに書きましょう。」	・自分のことを「真面目」と書いてあってびっくりした ・絵がうまいと書いてあって、うれしかった。 ・自分の気づかないことを書いてくれてあった。 ・自分にいいところがたくさんあるってわかった。	１０

６　反省

前もって、子ども達はクラス全員のよいところを書いた。学習・遊び・当番活動・清掃・給食などいろいろな場面でのその人のよいところを書いてみようと時間をとった。全員のことを書くのは難しいという子も多かった。

本時ではクイズ方式で楽しみながら活動できた。誰のことだろうと思いを巡らしていたが、なかなか正解できない場面もあった。自分のことが書かれた封筒を受け取ると、静かに食い入るように見ていた。「自分の気づかないことが書いてあった。」という感想もあり、子ども達はいろいろな視点でほめてもらえたことを喜んでいた。これからも認めあう活動を続けていきたい。

７　資料

・いいところカード　　・学習カード

主題名「三年元気組」

千曲市立治田小学校３年

１　主題設定の理由

友だちの言葉から自分のよさを見つける「ぼく」の姿などを通して、自分のよさを見つけ、伸ばすためには、どんな気持ちが大切かを考えさせ、自分の特徴に気づき、長所を伸ばそうとする実践意欲を育てる。

２　主眼

自分自身の良さになかなか自信が持てない子どもたちが、読み物教材を読みながら「ぼく」がどのように自分の良さに気づくことができたか考えたり、友だち同士で「よいところカード」を伝え合ったりすることを通して、自分の良さに気づき、長所を伸ばそうとする気持ちを持つことができる。

３　指導上の留意点

友だちの良さに気づけない児童には、教師が一緒に考え良さを見つける助言をする。

４　授業展開及び授業記録の大要

	学習活動	児童の反応	時間
導入	１　自分の「良さ」について考える	・自分の課題（ダメなところ）は言えるけれど、いいところは言えないな。どうしてだろう？ ・自分のいいところは、気づくのが難しいね。	１０
展開	２　「三年元気組」を読んで「ぼく」の気持ちを考える ３　友だちへ「よいところカード」を書いて伝える	・スピーチで何を話したらいいか迷っていた「ぼく」は、友だちが「読書が得意だから読書のことをかいたらいいんじゃない」と言われ、自信をもって読書のことをスピーチできたんだね。 ・自分で気づかないよさも、友だちから言われると気づけるんだね。 ・クラスの友だちにカードを書いて、お互いに読み合おう。 ・〇〇さんは、いつもマラソンをがんばっていて、すごいと思います。 ・〇〇さんは、人が困っているときにいつも励ましてくれてうれしかったよ。	２５
終末	４　自分のよいところ聞いて、どんな気持ちになったのか感想を共有する。	・いつも当たり前だと思っていたことも、友だちにほめてもらえて、すごいことなんだと思えました。 ・これからも、友だちのいいところをたくさん見つけて、ほめてあげたいです。	１０

6　反省

・なかよし旬間に合わせて行ったことで、子ども達も友だちの良さを伝えようという気持ちが持ちやすかった。

・参観日で授業をしたことで、お家の方にも自分の子どものよいところを友だちから褒められる場面を見ることができ、とても安心できたのではないかと感じる。

7　資料

・自作のパワーポイント資料（別ファイル）

・よいところカード

主題名『友だち屋』

千曲市立八幡小学校３年

１．主題設定の理由

日頃の授業の中では、ペア学習やグループ活動、友達同士の教え合いなどを取り入れることにより、ゆずり合ったり、助け合ったり仲良く過ごしている子ども達である。また、帰りの会などでは、友達の良いところをたくさん見つけ発表できる姿も見られる。

その反面、３年生になり、今までのように家が近い、保護者同士が親密、同じ幼稚園、保育所の出身といった理由で形成されていた友達関係から、遊びの好みが似ている、同じような考えを持っている、何となく気が合う、といった理由による仲間集団が作られるようになってきた。さらに、その仲間集団の中でも、自己中心的な考え方から、友達の思いを理解しようとせずに自分の思いだけを通そうとする姿も見られるようになってきた。

本主題「ともだち屋」は、主人公のキツネがクマ、そしてオオカミとのやり取りを通し、考えを変えていく姿から、友達と共に過ごす喜びや温かさ、本当の友達の大切さを感じ取ることができる。

こうしたことから、教材の「キツネ」の気持ちの変化を自分の気持ちと重ね合わせながら、友達に対する考え方を振り返ることを通し、学校生活の様々な場面で互いに理解し合い、信頼し合い、助け合おうとする心情を育てたいと願い、本主題を設定した。

２．主眼

「ともだち屋」を始めたキツネが「本当の友だち」と言われて喜び、商売をやめる姿を通して、友達とはどんな人なのかを考えさせ、互いに理解し合い、信頼し合い、助け合おうとする心情を育てる。

３．指導上の留意点

・自分事として考えさせるために、キツネが友だち屋を始めようとした時の思いをおさえる。

・キツネの思いだけにとどまることなく、クマやオオカミの思いも大切に扱い、多面的に捉えさせる。

４．展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導入	「友達」とはどんな人か、考えを出し合う。	・一緒に遊ぶ人。 ・助けてくれる人。 ・楽しい人 【めあて】友だちとは、どんな人でしょう。	・多様な考えを取り上げた後にめあてを出す。	5	
展開	「友だちや」を読んで話し合う。 ・キツネの思いを想像する。 ・オオカミの思いを想像する。	きつねは、どうして「友だち屋」をしようと考えたのでしょう。 ・お金をいっぱいかせぎたいから。 ・いろいろな人と遊べるから。 ・自分も楽しむことができるから。 オオカミは、どんな気持ちで「それが本当の友だちか。」と言ったのでしょう。 ・友だちだと思っていたのに、残念だ。 ・なんでそんな事言うのかな。 ・せっかく仲良く遊べたのに悲しい。	・最初のキツネの思いをしっかりおさえ、次の授業展開に生かすようにする。 ・キツネの打算的な考えと比較させながらおおかみの気持ちを考えさせ、多面的に捕らえさせる。	6 7	イラスト

	・キツネの行動の変化について、その理由を想像する。	【中心発問】「友だち１時間百円。」と言っていたキツネが、帰るときには「何時間でもただ。」と言ったのは、どんな考えからでしょう。 ・友だちと遊ぶのは楽しかったから。 ・オオカミが「本当の友だち」と言ってくれて嬉しかったから。 ・オオカミにあさっても来ていいと言われて嬉しかったから。 ・友だちからお金をとるのはおかしいと思ったから。	・ワークシートに書き、自分の考えをしっかり持たせる。 ・グループで自分の考えを発表し合い、多様な考え方に出合わせる。(「似ている」「考えつかなかった」「いいね」という３つの視点を持たせて話し合う。) ・グループの「考えつかなかった」「いいね」を中心に発表し合い全体で共有する。	１５	ワークシート
終末	これまでの自分と友だちとの関わりを振り返り、「本当の友だち」について考える。 振り返りをする	友だちとは、どんな人のことでしょうか。 ・自分のことを考えてくれる人。 ・自分のことを助けてくれる人。 ・心がつながっている人。 ・「学びの記録」にシールを貼る。	・ワークシートに書かせる。 ・自分の考えを一人ひとり書いた後、席を立ち、友達の考えを自由に見て回り、多様な考え方や感じ方に出合わせる。 (「似ている」「考えつかなかった」「いいね」という３つの視点を持たせ、見て回るよう伝える。)	9 3	ワークシート

５．授業記録の大要

	教　　師	児　童　の　反　応	時間
導入	・皆さんにとって「友だち」ってどんな人のことを言うのでしょう。	・３年松組の人 ・いつも一緒に遊んでいる人 ・困っている時に助けてくれる人 ・ふわふわ言動をしてくれる人 ・遊びに誘ってくれる人	4
	・「友だち屋」を範読・内容確認		

展 開	・キツネは、どうして「友だち屋」をしようと考えたのでしょう。（場面のイラストを掲示する。） ・オオカミは、どんな気持ちで「それが本当の友だちか。」と言ったのでしょう。 ・【中心発問】「友だち１時間百円。」と言っていたキツネが、帰るときには「何時間でもただ。」と言ったのは、どんな考えからでしょう。	・お金を儲けたかったから。 ・自分も遊べるし、相手にも喜んでもらえるから。 ・色々な人に出会えるから。 ・キツネが友だちをほしかったから。 ・さみしい人を楽しませてあげたいと思ったから。 ・友だちからお金をとるなんておかしいと思ったから。 ・友だちができたと思ったのに、悲しい気持ちになったから。 ・せっかく楽しく、仲良く遊んだのにひどいと思ったから。 ～ワークシートより～ ・オオカミさんのおかげで、友だちの売り買いはおかしいと思ったから。 ・「友だちや」で友だち体験はできたから、オオカミさんの言ってくれたとおりに、会った人には、必ず友だちになって仲良くしよう。 ・オオカミさんのおかげでみんなといっぱい仲良くなれそう。オオカミさんのふわふわ言動で心の中がスッキリした。 ・やっぱりお金はどうでもいい。オオカミさんのおかげでお金はやめて、色々な人と友だちになりたい。オオカミさんありがとう。 ・どうして今までお金をもらっていたんだろう。友達はお金では買えないのに。オオカミさんが「友だちからお金をとるのか。それが本当の友だちか」と言ってくれて、やっと本当の友だちが何か分かった。（A 児）	6 7 ２０
終 末	・友だちとは、どんな人のことでしょうか。 ・振り返り(「学びの記録」にシールを貼る。)	～ワークシートより～ ・自分の大切な人。・ふわふわ言動をしてくれる人。 ・けんかをする人。理由は、けんかをするということは、すごく相手を信用しているということだから。 ・けんかをしても仲直りができる人。 ・自分のことを分かってくれる人。 ・信頼できる人。　・分けへだてしない人。 ・失敗してもなぐさめてくれる人。 ・嫌がることをしないのが、本当の友だち。 ・自分にいやな事があった時に聞いてくれる人。	8

６．反省

・ワークシートで紹介した A 児が、仲間うちで自分の思いを強く通そうとする姿があまり見られなくなってきた。
・主人公のキツネと動物たちのやり取りが、自分事として考えたり、多面的に考えたりしやすく、３年生の子ども達にとり、関心を持って取り組める教材であった。
・クラスでの共有の仕方は、人それぞれ多様な考えがあることを子ども達が実感できるように、視覚的に捉えさせても良かった。（クロームブックでロイロノートのシンキンツールなどの使用も考えられる。）

７．資料　　「友だち屋」（『きみがいちばんひかるとき』光村図書　小学校道徳３年）

主題　　親切・思いやり「思いやりのかたち」

千曲市立戸倉小学校４年

１．主題設定の理由

本学級は、非常に活発で自己表現が得意な児童が多く、いろいろな場面で、自分の考えを表現し、どんどん動くことができる。担任が、日直当番不在時の挨拶や、他学級への届け物等をお願いすると、積極的に行ってくれる。一方、欠席児童がいて給食当番が足りない時や、委員会当番の関係で掃除担当の変更などがあると、人のために代わることを嫌がる児童もいる。自分の行動が目立ち、みんなに認められる場面では積極的に行動できるが、昼休みが短くなったり、自分がすべきことではないものを行ったりするなど、自分に不利益になる場面では、人のために動くことができない面がある。

資料「思いやりのかたち」の主人公「わたし」は、点字ブロック発祥の石碑がある街に住んでいる。それをきっかけに、視覚障がい者の歩行を補助するという自分なりの「思いやりのかたち」を考え、実践する話である。「思いやりのかたち」を読み、思いやりをもって行動することの良さを感じることができそうだ。

本授業を通して、日常の様々な場面で、相手のことを考え、自分ができそうな親切をしようとする実践意欲をもってほしいと考え、本主題を設定した。

２．主眼

人を思いやる行動とは何か考えた子どもたちが、資料「思いやりのかたち」を読み、視覚障がい者を助ける「わたし」の姿から、人を思いやる行動について考えることを通して、自分ができる親切をしようとする実践意欲をもつことができる。

３．指導上の留意点

・意見を共有できるようにしたり、学習カードを記入する時間を短縮したりするために、ロイロノートを使用する。

・資料が、他人事とならないように、自分と重ね合わせて考えるよう助言する。

４．展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導入	１．人を思いやる行動とはどんなことか考える。	・相手が困っている時に、何かやってあげることかな。 ・余計なお世話って言葉もあるな。	・学校生活で日常の場面を話し、人を思いやる行動について考えさせるようにする。 ・いろいろな考えを出せるよう、自由に発言を促す。	5	

展開	2．資料を読み、三宅さんのすごいところを考える。	・点字ブロックを作ったところ。 ・世界中で点字ブロックが使われているところ。	・自分ができる行動かどうか問いかけ、3の学習活動につなげる。	8	
	3.「わたし」の「これが私の思いやりのかたちなんだ。」という言葉に込められた思いを考える。	・自分のできることをやったぞ。 ・緊張したけどいいことをしたな。 ・人のために役に立ってよかったな。	・一人で考えることが難しい児童は、友と一緒に考えられるようにする。 ・ロイロノートを使用することを促し、自分の意見を加除修正したり、友の意見を参考にしたりしやすいようにする。	１０	ロイロノート挿絵
	4．　日常生活で、今まで自分が困っている時にしてもらったことでうれしかったことを考える。	・足のけがをした時、荷物を持ってもらったな。 ・委員会の仕事の時、給食当番を代わってもらったな。	・思いつかない子が多かった時は、実際に教師が見た場面を例示する。	１２	
終末	5．今日の授業で考えたこと・学んだことを書く。	・これから、相手のことを考えてできそうなことはやってみよう。 ・自分なりの思いやりについて考えることができた。 ・知らない人でも、何か手伝えるといいな。	・ロイロノートで各自まとめた後、全体で共有し、友だちの考えを知ることができるようにする。	１０	ロイロノート

5．授業記録

段階	学習活動	実際の児童の反応	時間
導入	1．人を思いやる行動とはどんなことか考える。	・相手が困っている時に、何かやってあげることかな。 ・相手が本当にしてほしいか考えて行う行動だと思う。 ・道でも、困っているおばあさんがいたら助けることとか。	8

展開	2．題材文を読み、三宅さんのすごいところを考える。	・点字ブロックを作ったこと。 ・世界の国々に広まった点字ブロックを考えたこと。	8
	3.「わたし」の「これが私の思いやりのかたちなんだ。」という言葉に込められた思いをせりふで考える。	・三宅さんみたいになれなくても、近くにいる困っている人を助けるのが、私の思いやりのかたちなんだ。 ・私のできることをできた。次も困っている人がいたら助けよう。 ・私にもできた。やった～。 ・私にもできることがあるんだ。うれしいな。 グループで話す様子。 	１０
	4.日常生活で、今まで自分が困っている時にしてもらったことでうれしかったことを考える。	・けがをした時に、「大丈夫？」と言ってくれた。 ・1 年生の時に、登校班の 6 年生が歩くのをゆっくりにしてくれた。 ・社会の時、Y さんが漢字を教えてくれた。 ・上ばきをなくした時に、一緒に探してくれた。	１４
終末	5．今日の授業で考えたこと・学んだこと・感想を書く。	・三宅さんみたいな凄いことはできないけど、困っている人を助けたい。 ・人には親切にした方がいいということを学んだ。 ・困っている人がいたら助けたいと思った。 ・考えるのが楽しかった。 ・人助けは気持ちいい。	5

6．反省

・グループ活動を取り入れたり、ロイロノートを使用したりしたことにより、表現することが苦手な子どもでも、自分の考えを記入することができた。

・３の場面で、なにを考えていいか困る子が多くいた。「思いやりのかたち」とは何か、全体で話し合い確認してから個人で考える時間にすべきであった。

・人のために行動することの良さを多くの子が、実感することができたが、実践意欲をもつことができなかった子どもが多くいた。まとめの段階で、「これから、どんなことをしたい。」といった声がけをして、実践意欲を喚起する必要があった。

７．資料

光村図書　道徳　４年

㉗ 思いやりのかたち

点字ブロックって、知ってる？

・6 相手を思いやり、進んで親切にする

学校の帰り道、白いつえをついて歩いている人を見かけました。わたしは、すぐに目の不自由な人だということに気づきました。

しばらく様子を見ていると、その人は、白いつえを右や左に動かして、まるで目が見えているかのようにまっすぐ歩いています。その人の足元には、点字ブロックがありました。点字ブロックは、横断歩道までずっと続いています。その人は、横断歩道の所で立ち止まりました。そして、信号が青に変わった音が鳴ると、歩き始めました。

わたしは、家に帰って、お父さんにそのことを話しました。

「そうそう、点字ブロックが世界で初めて取り付けられたのは、岡山県なんだよ。」

おんせい▸ しりょう▸

136

「えっ、そうなんだ。」

わたしはおどろきました。

「原尾島の交差点の所に、点字ブロックのたん生を記念する石ひがあるんだよ。今度行ってみようか。」

次の日曜日、わたしは、お父さんと原尾島にある石ひを見に行きました。石ひには、こんなことが書かれていました。

点字ブロックは、目の不自由な人たちの安全な移動のために、岡山県に住む三宅精一さんによって考案され、一九六七年（昭和四十二年）三月十八日、原尾島交差点周辺（岡山市中区）に初めて取り付けられた。その後、点字ブロックは、日本全国、さらに世界の多くの国々に広がっている。

「三宅さんって、すごいなあ。」

わたしが思わずつぶやくと、お父さんが言いました。

「うん。点字ブロックは、三宅さんの思いやりのかたちだね。」

「そうか。思いやりのかたちか。」わたしは、その言葉を心の中でくり返しました。

点字ブロックのたん生を記念する石ひ

三宅精一さん

＊点字ブロック
正式名は、「視覚しょうがい者ゆうどう用ブロック」。

137

次の日の学校の帰り道、また、この前と同じ人を見かけました。ところが、この前とは様子がちがって、白いつえをコツコツとついたまま、立ち止まっています。

「どうしたんだろう。」見ると、点字ブロックの上に、自転車が置いてありました。「自転車がじゃまをしているんだ。どうしよう――。」

わたしは、どきどきしながら、声をかけました。

「だいじょうぶですか。」

「つえに何か当たったみたいで――。」

「自転車が置いてあるんです。あぶないですから、こちらを通ってください。」

わたしは学校で習ったように、その人にわたしのひじを持ってもらうようにして、置いてある自転車の先の点字ブロックまで案内しました。

「ありがとう、助かりました。」

その人はにっこりして、またつえをつきながら点字ブロックの上を歩いていきました。

「よかった。」わたしは、ほっとしました。そして、点字ブロックの上に置いてある自転車を移動させました。

「わたしにだって、できることがある。これがわたしの思いやりのかたちなんだ。」そう思うと、いつもの帰り道が、とてもすてきな場所に思えてきました。

別の日の帰り道、わたしはまた、同じ人を見かけました。

「こんにちは。」

と、思い切って声をかけてみると、

「こんにちは。もしかして、このあいだ助けてくれた子かな。あのときはありがとう。」

と言ってくれました。

「覚えていてくれたんだ！」わたしは、心が温かくなるのを感じました。

山本晶子 作 ◆ 岡田千晶 絵

138

考えよう・話し合おう

人を思いやるとは、どういうことでしょう。

●「わたし」は、三宅さんのどんなところを「すごいなあ」と思ったのでしょう。

◎「わたし」の「これがわたしの思いやりのかたちなんだ。」という言葉には、どんな思いがこもっているでしょう。

●あなたが、今までにしてもらってうれしかった「思いやりのかたち」は、何ですか。

つなげよう

次のページの「見えないしょうがいに気づくこと」を読んで、「共に生きること」について、さらに考えを深めよう。

社 SDGs

139

140 139 136

主題名　「わたしはこんな友だちが好き！」　更級小学校３年

（１）主題設定の理由

集団との同一性を常に意識し、自分や集団にとって異質な考え方や存在を排除しようとする傾向があることを知らせ、周りに流されず差別や偏見に立ち向かうためにはどうしたらよいかを考えさせたいと願い、本主題を設定した。

（２）本時の主眼

今の自分に必要だと思う友だちの順番を考える子どもたちが、友だちの特徴が書いてあるカードの順番を決めて、グループで聞きあう活動を通して、意見や考えの違いを尊重し合っていく心情や態度を養うことができる。

（３）指導上の留意点

・選ぶカードで順位をつける際に、順位をつけることが目的ではなく、何が大切かを考える手段として捉えるようにする。
・相互理解は、難しいことであり、大切であることにふれるようにする。

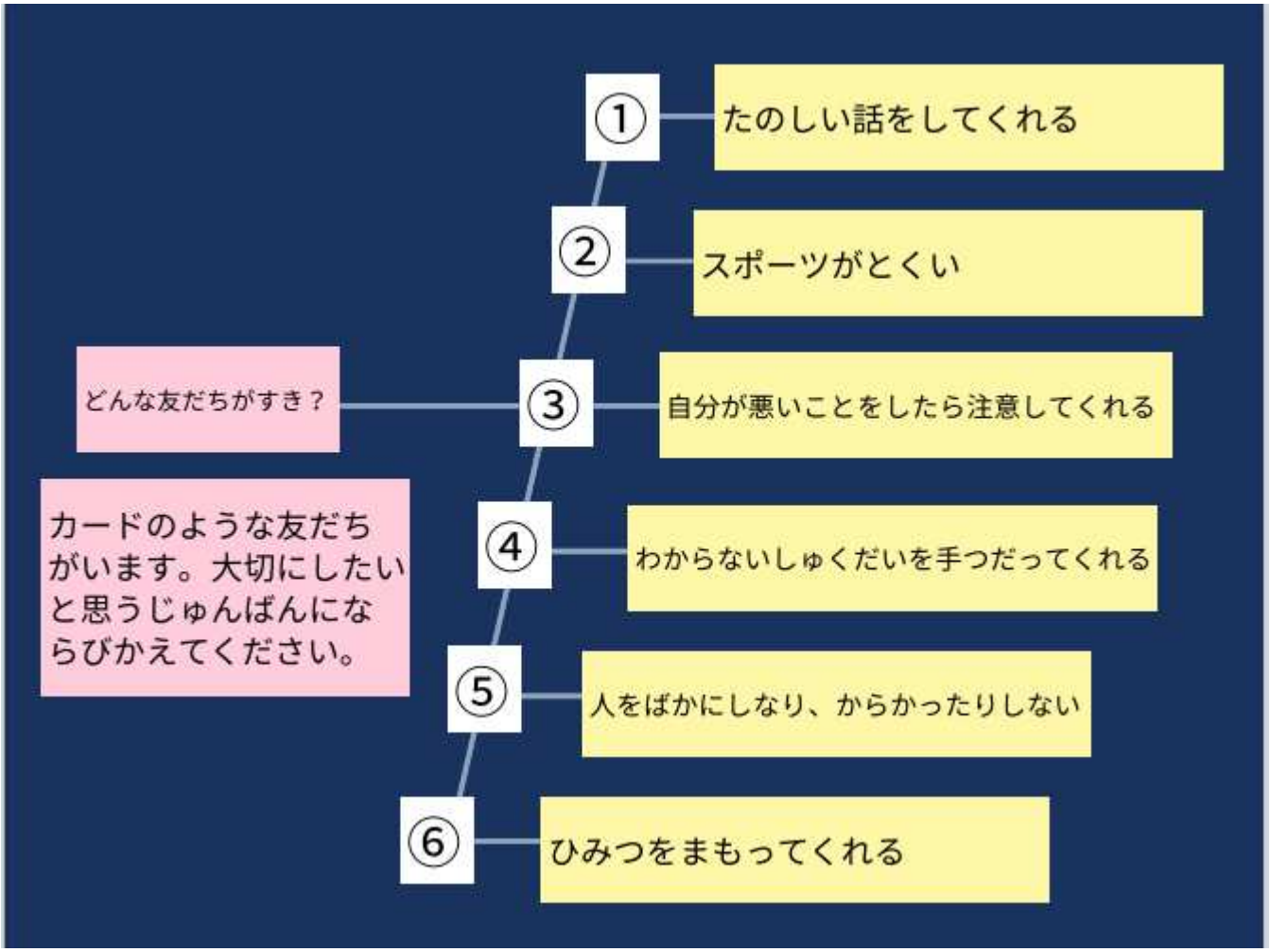
（４）展開

	学習活動と・予想される児童の反応	○支援　　◇評価	時間
導入	１　自分のことをわかってもらう **自分のことをわかってもらうためには？** ・○○だから１番にしたと思う。 ・先生の決めた理由を聞いてわかった。	○お互いの意見が違った時はどのようにわかり合っているのか聞く。 ○教師が例を出し、教師がどう思っているのか考えさせることで他の人のことも知りたいという意欲を高める。 ○わかり合うことの大切さにふれる。	8
展開	２　順番を決める **今の自分に必要だと思う友だちの順番を決めよう** ・同じしゅみの人が１番かな。 ・ひみつを守ってくれる人が上かな。 ・あいさつをしてくれる人は下のほうかな。 **順番の理由を聞きあい、自分のことをわかってもらおう** ３　聞き合う活動 ・ぼくは、スポーツがとくいな人と一緒に遊ぶと楽しいから１番にしました。	○自分のことを理解するための手段として順番をつけることを伝える。 ○自分がどんなことを大切にしているかを考えながら１位～１０位まで並び替えをする。 ○どうしてその順番にしたか、理由を書く。 ○順番が決められなかった子には、決められなかった理由を大切にするように話す。 ○ワークショップの目的は、自分のことを理解してもらったり、相手のことを理解したりするための活動だと伝える。 ○悩んで決められなかった子がいたら悩んだ理由をグループで共有する。 ○話し合いや友だちの意見を見た中で順番を変えるようなら変えるよう伝える。	8 15
終末	４　話し合って感じたことの発表 ・自分が考えたものと違う人が多かった。 ・○○さんの考えを聞いて自分の考えが変わった。 ・友だちの意見の中で大切なことが一人一人違うことに気づけました。 ５　ふり返り **自分をわかってもらう活動をしてどうだったかな？** ・自分のことを知ってもらうために、しっかり理由を伝えたらわかってもらえた。	○自分のことを理解してもらったり、相手のことを理解したりするためにはどんなことが大切か聞くようにする。 ○児童の発言の中から、考えに違いがあることのよさについて伝える。 ○ワークショップをした目的に即してのふり返りをするよう促す。 ○グループごとでふり返りを伝え合う場を設ける。 **◇意見や考えの違いを尊重し合っていく心情や態度を養うことができる。**	7 7

（５）反省

・実生活と結びついていない選択肢があったり、考えづらい選択肢だったりと選択肢の中身をクラスに沿った内容にすべきだった。
・順番の理由を話す際に、一つ一つの理由を話していて、順番に意識がいっていない児童がいたので、学習課題をしっかり据えて話し合いをするように促す必要があった。

選択肢（あけぼの参照）


①
たのしい話をしてくれる
②
スポーツがとくい
どんな友だちがすき？
③
自分が悪いことをしたら注意してくれる
カードのような友だちがいます。大切にしたいと思うじゅんばんにならびかえてください。
④
わからないしゅくだいを手つだってくれる
⑤
人をばかにしなり、からかったりしない
⑥
ひみつをまもってくれる

主題名「なかよしゲーム」

千曲市立五加小学校２年

１　主題設定の理由

同じ仲間での生活が２年目を迎えた。授業中のグループ活動では、男女問わずに一緒に活動できる良さを持っている。休み時間は、いつも同じ友だちと遊ぶ子、沢山の友だちと関わって遊ぶ子、少人数で誘ってもらって遊ぶ子と様々である。その中で、困っていたり泣いていたりすると優しく声をかけて助けてあげたりする姿が見られる。

一方、調子に乗りすぎたり、勘違いから、強い言葉で相手を責めてしまったり、傷つける言葉を言い放ってしまったりすることがある。また、言葉や力の強い児童が自分の考えを押し通している場面も見られる。友だちの気持ちを考えない自分中心の言動が気になっている。

そこで、「ふわふわ言葉、ちくちく言葉」について学ぶとともに、改めて「なかよし」について意識できるようにし、身近にいる友だちと仲良く活動する大切さや、自分一人ではできなくても友だちに助けてもらうとできることを実感できるようにしたい。「豆のひっこし」と「同じシール集まれ」を行うことを通して、助け合う喜びや心地よさを感得できるようにしたいと考え、本主題を設定した。

２　主眼

「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」を考えた子どもたちが、「豆のひっこし」ゲームでふわふわ言葉で友だちと励まし合ったり、「同じシール集まれ」ゲームで友だちと助け合ったりすることを通して、協力し合うこととの心地よさや喜びを感じることができる。

３　指導上の留意点

（１）ルールでもめないように、ゲームの前にルールをよく確認する。

（２）「同じシール集まれ」ゲームでは配慮を要する児童には、人間関係を考えて色シールを貼る。

４　授業記録の大要

	学習活動	教師の発問等（■）　　児童の反応等（○）	時間
導入	１本時の活動を知る	■仲良くなるために「豆のひっこし」と「同じシール集まれ」ゲームをすることを知らせる ■仲良くゲームするにはどんなことが大事かな（学習問題） ○ふわふわ言葉を使う　○せめない　○やさしく教える ○ちゃんと聞く ■ふわふわ言葉をつかったり、やさしく助け合ったりして、ゲームしよう（学習問題）	７
展開	２「豆のひっこし」を行う （２列ずつ行い他の列は見ている）	■ルールの説明 箸を使って大豆を移動します。豆が列のはじめの人に戻ったらゴール。速さの競争ではありません。ふわふわ言葉を沢山使いましょう 「豆のひっこし」ルール ① 大豆ははしで持つ ② カップは机の上に置く ③ 落ちた豆は自分のカップにもどす ルールの紙（掲示用） カップ人数分 豆（１グループに大豆７粒） 割り箸（グループ分） ■道具を配ってスタート ○難しいな。でもがんばるぞ。○おねがいね　○わかった　○どうぞ ○頑張れ。○あせらなくていいよ　○ドンマイ　○ありがとう	２８

	３「同じシール集まれ」を行う	■使った言葉を教えてください ○頑張れ　○あせらなくていいよ　○ドンマイ　○ありがとう ■言われてどんな気持ちがしましたか ○うれしかった　○気持ちがいい　○頑張ろうと思った ■ルールの説明 言葉を使わないで、目や顔やジェスチャーで教えあって、同じシールのお友だちが集まりましょう。指で字は書きません。 「同じシールあつまれ」ルール ① 言葉を話さない ② 目や顔やジェスチャーでやさしく教え合う ③ 文字は書かない ルールの紙（掲示用） 割り箸赤・青・黄・白・オレンジ・緑の６色のシール（担任が背中の中央に貼っていく） ■同じ色の人がそろったと思ったらすわってください。スタート ○始め長い時間、不安そうにうろうろしている　○ともだちを同じ色の人の所へやさしく連れて行く　○同じ色の人のシールを指さして色を教える ○赤と青と黄チームは、全員が一緒になりきれずにペアに分かれてすわった。他の色は全員で集まることが出来た ■どうやって同じ色の人が集まりましたが ○同じ色の人のところに友だちがひっぱっていってくれた ○同じ色のシールを指さしてお互いに教え合った ■その時どんな気持ちがしましたか ○教えてもらってうれしかった ○やさしく教えてくれたからうれしかった ○はじめは心配だったけれど、色がわかって安心した	
終末	４学習カードに書いて本時を振り返る	■カードに「できたこと・うれしかったこと・わかったこと」を書きましょう（代表児童に発表してもらった） ○「がんばれ」と、たくさんおうえんできてうれしかった ○たくさんおうえんしてもらってうれしかった ○緊張したけど、うまく豆をつかむことが出来てうれしかった ○友だちが豆のカップをおさえてくれたからやりやすかった ○やさしくひっぱってもらって、自分の色の友だちのところに行けたからうれしかった ○友だちが指で自分のシールと同じ色をタッチして教えてくれてうれしかった ■普段の生活の中でも今日のゲームのように励まし合ったり教え合ったりしていきましょう	１０

５　反省

・「がんばれ」「ありがとう」「どんまい」「ゆっくりでいいよ」「どうぞ」など、普段使わない児童も、ゲームを通して実際に意識して使う場面を設定したことで、どの児童も言うことができた。普段からふわふわ言葉を進んで使えるように励ましていきたい。

・教えてもらったり、教えてあげたりの体験が少ない児童もいる。はじめは、うろうろしていた児童だが、友だちの行動をヒントに、どうしたら教えてあげることが出来るのか気づいて、実行する姿が見られた。良い経験が出来た。一回のゲームで時間が終わってしまったが、何回かこのようなゲームを積み重ねることで、教えたり教えてもらうことのうれしさを体験してもらいたいと感じた。普段の学習や生活の中に結びつけていきたい。

６　参考資料　　「人権教育実践事例集　東小学校２年生」を参考に実践させていただきました。

主題名『色えんぴつをわすれちゃった』

千曲市立上山田小学校３年

１　主題設定の理由

小学校生活も３年目を迎え、クラスメイトとも気心が知れてきたところだが、反面なかなか相手に気持ちや思っていることを伝えられず、ガマンをしてしまう場面も目にすることがある。また、３年生になって協同的活動をする経験が増え、「協力する」ことの大切さも感じ取っている。

あけぼのの教材「色えんぴつをわすれちゃった」は、６人グループで協力して一枚の絵を仕上げていくことで、楽しくコミュニケーションを取りながら、協力する良さを感じ取れる教材である。今の学級の実態にちょうどよい教材だと判断し、主題を設定した。

２　主　眼

一人一人が自分の持っている情報を正確に伝え、相手の情報もよく聞く活動を通して、グループでコミュニケーションを取ることの楽しさや協力の大切を学ぶことができる。

３　指導上の留意点

・カードの書いてあることを言葉で伝えることが難しい児童には、そばに寄り添っていっしょにカードを読み上げる。

・ふり返りの場面では、グループでふり返る経験が浅いことから、ふり返る観点を助言していく。

４　展　開

	学　習　活　動	予想される児童の反応	指　導・助　言	時間	備　考
導入	１本時の活動の見通しを持つ。	・ココランドを作るときみんなでがんばった。 ・野菜畑の草取りが大変だけど、みんなとやると自然と夢中になる。 ・色鉛筆を使って、絵に色を付けるんだね。	○生活科や総合の授業から、みんなで力をあわせて活動してきたよさをふり返り、本時の活動につなげる。	５	パワーポイント
	ルールに合わせて、グループで協力して、給食の絵を完成させましょう。				
展開	２ルールとやり方を聞き、グループで絵を完成させる。	・情報が書かれたカードがあるんだ。 ・カードは見せないで、言葉で伝えるんだね。 ・色鉛筆は自分だけが使っていいんだ。だから協力しないと。	○パワーポイントを使いながら、ルールややり方を説明していく。質問があったらその場で聞く。	２５	給食の絵 ６色のクーピー １２枚の情報カード

		・ジャガイモは黄色だから、ぼくが塗るね。 ・スプーンは何色なんだろう。 ・もう一回、この色が描いてある日と、カードを読んでみてよ。 ・チェックって、どんな模様なのかな？知っている人、いますか？ ・だんだんできてきたよ。	○なかなか色を塗り始めないグループには、分かったところから色を付けていってよいことを助言する。 ○早く色を付けてしまうグループには、さらにおいしそうに見えるように丁寧にぬらせる。 ○コミュニケーションを取りながら楽しそうに色を付けているかどうか確認する。話し合いが膠着していたら支援に入る。		
終末	３活動のふり返りをする。	・みんななかよくできたぞ。 ・協力するって大事だし、楽しいな。	○始めに「あけぼの」にふり返りを書かせ、その後グループで活動のふり返りをする。	１５	

５　授業記録の大要

	教　　師	児童の反応	時間
導入	「協力」ってどういうことかわかりますか？ 今日は、グループで「協力」する活動をします。	・分かる。ココランドをみんなで作るときに協力した。 ・野菜の草取りをするのが大変だけど、みんなでやると早く終わる。 ・なにこれ、絵に色が付いてないよ。 ・これに色を付けるんだね。	５
展開	でも、ちょっとしたルールがあるんです。 それでは２０分間で、協力して色を付けましょう。	・カードって何？ ・色の説明が書いてあるんじゃない？ ・クーピーは人に貸しちゃいけないんだ。 ・じゃあ、友だちに「これ塗って」ってお願いしなきゃいけないね。 ・１番のカードから順番に読んでよ。 ・わかった、ニンジンはオレンジだね。塗るよ。 ・ジャガイモは黄色、パンは肉と同じだから茶色。 ・スプーンは何色なの？ ・牛乳と同じだから水色だよ。 ・チェックってどんなふうに書くのかな？ ・誰か知ってる人、いる？	５ ２０

		・完成したよ！みんなで手をつなごう！ ・こういうのって楽しいよね。 ・きれいにできたね。もうちょっと色を濃くしよう	
終末	「あけぼの」の教科書に、ふり返りを書きましょう。 それでは、グループになって絵に色を付けたことをふり返ってみましょう。	・「みんななかよくできた」は〇だ。 ・他の人の話もよく聞けたと思う。 ・順番によかったことを発表していこう。 ・私も協力して楽しかったって書いたよ。 ・〇〇ちゃんが、色がわからない時にがんばって考えていてよかった。	5 １０

6　反　省

・グループになって活動をする経験が少なかったので、色を付ける活動は協力しながら楽しそうに活動をする姿が見られた。ルールややり方を理解した子どもたちが、ゆっくり学ぶ子どもたちにやさしくやり方を教えながら、最後にはみんなで絵を仕上げることができた。

・グループでのふり返り活動がやったことがなかったので、グループによっては黙ってしまって何をどうしたらよいのか困っていた。記述したことを順番に発表してみて、「なかよくできてよかったこと」「今度話し合う時は直した方がよいこと」など、観点を設けて話し合わせればよかった。

「思いやりのあることば」（生徒会　福祉・人権委員会主催）

千曲市立屋代中学校

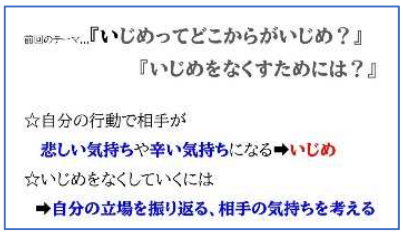
１　テーマ　　「思いやりのあることば」

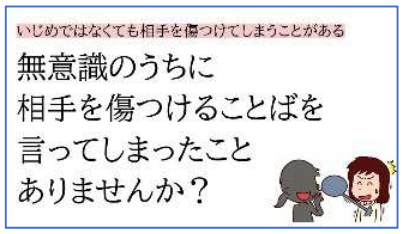
２　内容概要

後期人権集会では、全校生徒が参加し、言葉の大切さについて考える機会を持ちました。前期人権集会では「いじめってどこからがいじめ？」「いじめをなくすためには？」というテーマを扱い、自分の行動や言葉が他者に与える影響について話し合いました。それを踏まえ、今回の集会では「思いやりのあることば」をテーマに、日常生活での言葉の使い方について深く考えました。

３　主な活動

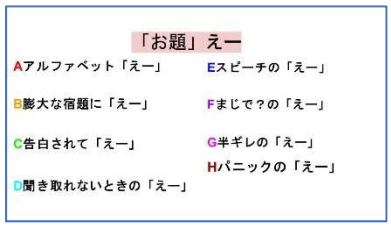
（１）導入　前期人権集会の振り返り

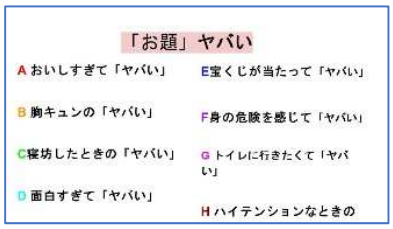




前期人権集会では､「いじめってどこからがいじめ？いじめをなくすためには？」をテーマにし、アンケートをもとに考えました。いじめは自分の行動やことばで相手が悲しい気持ちや、つらい気持ちになっていたらそれはいじめになってしまう。そしてそのいじめを無くすには、「自分の立場を振り返る」そして、「相手の気持を考える」ということを学びました。今回のテーマは、「いじめ」ということばにくくらず、「思いやりのあることば」について考えます。

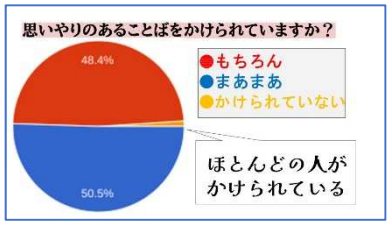
（２）ゲーム「はぁっていうゲーム」

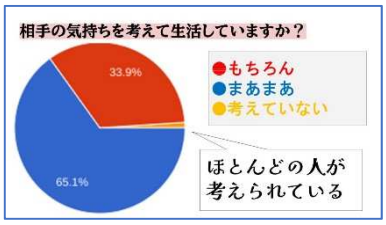




生徒が表情や声色だけで感情を表現した動画を見て、どの感情に当てはまるかを考えるアクティビティを行いました。この活動を通じて、言葉が持つニュアンスや感情の読み取りについて理解を深めました。

（３）アンケート結果の共有





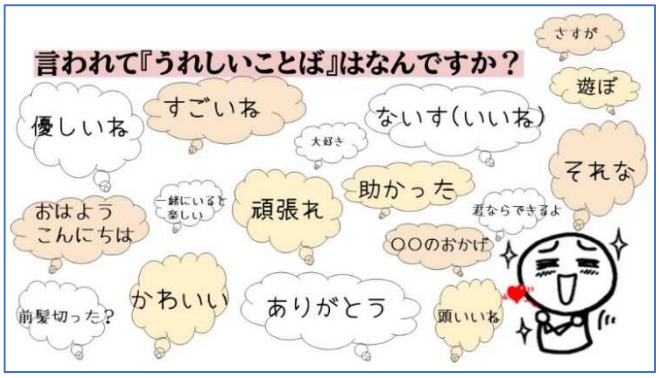
「思いやりのある言葉をかけられていますか？」という問いに対し、ほとんどの生徒が「もちろん」または「まあまあ」と回答しました。また、「相手の気持ちを考えて生活していますか？」という問いについても、９９％の生徒が考えていると答えました。

（4）「嬉しい言葉」と「悲しい言葉」の共有

生徒からのアンケートをもとに、「ありがとう」「すごいね」などの嬉しい言葉と、「死ね」「ばか」などの悲しい言葉について話し合いを行いました。　言葉の使い方次第で他者の気持ちを大きく変えることを学びました。

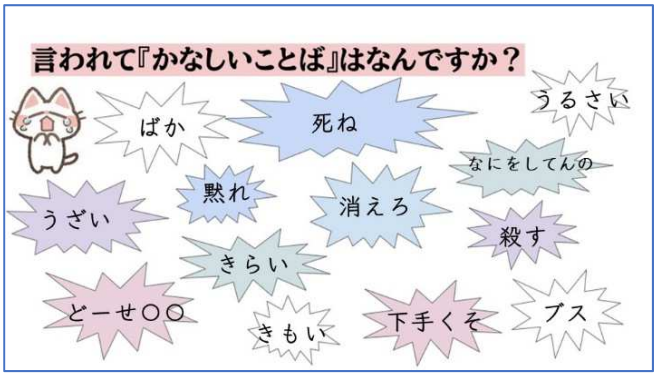
人権集会で用いたスライド：

自分ではない他の人が言われて
うれしいことば、**かなしいことば**を知る
⬇
今までより**思いやりのあることば**を
かけやすくなる



どんな場面で言ってもらいましたか？

- 相手のために何かをした時
- 困っているときに助けた時
- 物を貸した時
- なにかを達成、成功した時
- なにかを譲った時
- 普段の会話
- 授業や部活



どんな場面で言われましたか？

- 話のノリ(遊び半分)
- 喧嘩した時
- 部活動中
- 高い目標を打ち明けた時
- ミスをした時
- 陰口
- 注意した時

アンケート結果から...

思いやりあることばや相手の気持ちを
考えながら行動できている

今ここ！！

⬇

思いやりのあることばを改めて知る

⬇

今までよりも**思いやりのあることば**をたくさん使うことができる！！

（５）屋中人権宣言の再確認

全校生徒で人権宣言を声に出して読み、改めて日常生活での人権意識を高めました。

屋中人権宣言を全校で読んで
再確認しましょう！

前文

私たち屋中生は、生徒全員が安心して過ごせる屋中を創り上げていくことを目指し、次のことについて確認し、一人ひとりが意識して行動する。

第1条

私たちは、互いに個性を認め合い、誰もが自分らしく学校生活を送る権利がある。

第2条

屋中生は、人の悪いところは悪いと言い、良いところは良いと言える対等な立場である。

第3条

屋中生は、総会・集会・学年・クラスどの場においても、自由に発言する権利を有する。 それに対する、周囲からの冷やかしや陰口などはしてはならない。

第4条

私たちは、屋中からいじめをなくしていくために、誰かが一人になっていたら勇気を持って 声をかける努力をする。

４　集会を通じて

この集会を通じ、他者の感情を理解しようとする姿勢、言葉の選び方が持つ力、日々の生活で「思いやりのある言葉」を使う努力などを意識する重要性を学びました。また、ゲームやアンケートを通じて、自分や周りの言葉が相手にどのように伝わるかを改めて考えました。

振り返り

・相手への**ことばの伝わり方**を少し意識してみるだけで、無意識に傷つけてしまうことが減る。

➡今日、改めて学んだ他の人への**思いやりのあることば**を意識してみてほしい。

相手が言われてうれしいことばや、かなしいことばなど
今回の人権集会でわかったことを活かして生活しよう！

５　資料　～人権教育まとめの作文より抜粋～（１年生）

・福祉人権委員会の人たちから学んだ言葉が心に残りました。福祉人権委員会の人たちの話では、言われて嬉しい言葉はたくさんあり、その分言われて悲しい言葉もあるということがわかりました。人に言われて悲しいことは人にも言わないということを前よりもしっかりと考えていきたいと思いました。

・言っていいこと悪いことを学びました。自分は、はぁっていうゲームが印象に残りました。いくら仲が良い友だちでも、暴言、陰口などを言ってしまえばすぐに仲が壊れてしまうのがわかりました。

・私は、「はぁっていうゲーム」をやったことがありました。実際の動画の通り、感情を込めたり工夫をしたりすると、同じ言葉でも言い方によって伝わり方が変わるということがわかりました。たしかに、感情を込めると伝わりやすさが変わるのだな、と思いました。私は、言葉の使い方や、言葉の選び方に気を付けて、生活の中で友達などと会話をしていきたいです。

「人権教育の実践収録」

1　主題名

自分の人権も他者の人権も尊重できるようになる～部落差別解消を考えることを通して～

千曲市立埴生中学校３年

2　単元の展開

【第1時】「部落差別の解消の推進に関する法律」が必要な社会　―　人権三法と合わせて

〈ねらい〉 法律として、差別があることを認め、解消を推進しようとしていることを確認する。

〈学習内容〉

・人権三法「部落差別の解消の推進に関する法律」を中心に。

・部落差別とはどういった差別なのか。

〈資　料〉

・「あけぼの」p133,134

・「部落差別の解消の推進に関する法律」

【第2時】見えていないだけかもしれない部落差別

〈ねらい〉「自分のまわりにも部落差別の被害者がいるかもしれない。自分が部落差別の加害者になっているかもしれない。」という意識で生活しようという気持ちをもつ。

〈学習内容〉

・今なお、部落差別による人権侵害が行われている事実を知る。

・差別を受ける側の思いを知ったり、気づかないうちにまわりの誰かを傷つけたり不安にさせたりしているかもしれないことに気づき、自分たちが差別解消のためにすることを考える。

〈資　料〉

・学習カード（ポスター3 種）

・「大切な部落を受け継ぐ」「あけぼの」p135

【第3時】差別解消のために

〈ねらい〉「差別の被害者にも加害者にもなり得る」こと、行動でしか差別解消はできないことを踏まえて、自分ができることを考える。

〈学習内容〉

・「Citizen of the Planet」を読み、差別解消に向けて大切だと思うことを考える。

〈資　料〉

・「Citizen of the Planet」あけぼのp136

【第4時】「クラスの人権目標を作ろう」

〈ねらい〉ウェルビーイングな学級作り・学校作り

〈学習内容〉

・人権強調月間の学びを生かして、身近な生活から行動を見返す。

〈資　料〉

・学習カード

3 第３時展開

「Citizen of the Planet（地球市民）」から差別をなくすためにすること考える

学習活動	指導・助言
1 「Citizen of the Planet(地球市民)」 を読む。	・「Citizen of the Planet(地球　市民)」を読み、Tさんの考えや行　動から差別解消に必要なことを考　えることを伝える。
2 Tさん(Aさんの娘さん)の「自分自身のことを差別していました」とは、どういうことかを考える。	・冒頭「私は、以前自分自身のことを　差別していました」を示し、どういうことかを問う。
3 Tさんが差別に向き合えるようになったのはなぜかを考える。	・Tさんの気づきや行動に焦点を当てて読み取るように指示する。
4 Tさんが、差別に立ち向かうために必要だと述べていることを確認する。	・Tさんが、述べていることの中で大切だと感じたところを挙げるように伝える。
5 今までの自分を振り返り、どのようなところを改善していくとよいか考える。	・(部落)差別解消のために改善することを、今までの自分を振り返り、書くように指示する。

4 生徒の学び

・まわりの人に関心をもちたい。もっといろいろな話をしていく。自分のこともっと伝えていきたい。(多数)
・先入観や偏見をもっている自分に気づいた。そういう自分であることを意識して、他者との関係を作っていきたい。
・自分の本心を伝えたり、行動に移したりする勇気が足りていなかった。ちょっとずつできるようにしていく。
・例えば、LGBTQ の人に対して失礼の無いよう気を遣うのではなく、だれとでも同じように接することができるようになりたいと思った。
・さまざまなこと(差別問題)に関心をもつことや知ることの大切さを学んだ。知らないことは考えることもできない。
・自分の中での当たり前は、他の人から見たら当たり前ではないかもしれないと気づいた。話したり学んだりすることで偏見をなくしていくことができそうだ。

5 反省・課題

生徒たちは、知ることや関心をもつことの大切さを感じ取るとともに、自分の中の消極的な面にも目を向けることができた。自分を出したり、他者をもっと知ろうと思ったりすることが増えることで、少しずつでも身近な誤解や偏見をなくしていけるとよい。

また、人権侵害や差別というと大きな事件や悲惨な結果を伴ったものというイメージがあるかと思うが、日常の、ちょっとしたわだかまりを持つような場面についても大切に考えていきたい。

令和６年度人権教育の実践（３学年） 後期人権教育強調月間の学習から
主題名 「すべての人が気持ちよく生きることができる社会を目指して」

1. 人権教育の学年目標

さまざまな人権にかかわる諸問題を自分にもかかわりのある問題として学び、差別をしてしまう可能性をもつ自分を見つめつつ、どうしたら「人権」が尊重されていくのかについて考えることができる。

2. 後期人権教育月間を通して考えたいことと育みたい心

『すべての人が気持ちよく生きることができる社会（共生社会）を目指す上で、大切なことって何だろう』

今回の人権学習をきっかけに、知らなかったではなく、LGBTQ と同和問題に関わる正しい知識を学び、身近な問題であることを知り、今後その問題に直面した時に差別をしない心を育みたい。

3. 指導上の留意点

どの立場の生徒も悲しい思いをしないよう教師は伝え方に十分注意し、生徒が書いた意見を共有する際は無記名で行うなど配慮をする。

4. 展開

第1校時／4校時

	学習活動	学習内容	指導・支援	時間
導入	1 資料（性別は何でしょう）を見て、性別を考える。	○資料を見て、無意識に男か女かを当てはめていることに気が付く。 ○性別は本当に男と女の2つだけなのか考える。 自分の当たり前をアップデートしよう。	・資料（性別は何でしょう）を提示 ・「このイラストの性別は何だと思いますか？」という発問をする。	5
展開	2 性のありかたは何で決まるのかを考えて、知る。	○身体の性、心の性、好きになる性、社会的な性など、性のありかたを決めるのは一つではないことを確認する。 ○LGBTなどの性的マイノリティだけではなく、異性愛などのマジョリティも含めて説明する。	・学習カード①を配布し、設問1、2の項目を記入。 ・差別的な発言がないように指導する。	15
	3 DVD を視聴する。（１５分）	○様々な性的マイノリティの方々の話を聞き、理解を深める。 ○当事者の話を聴いて感じたことを書く。 ○全体で共有する。	・ALLY TEACHER’S TOOL KIT (DVD)「多様な性ってなんだろう？」 １多様な性について ２大学生そうしさんの心情 ３その母親の心情 ４大学生きょうへいさんの心情 ５その友だちの心情 ６多様性について	15 10
終末	4 学習のまとめをする。	○本時の感想を書く。数人に発表してもらう。	・感想をグループで発表させ、何人かに全体の場で発表してもらう。	5

第2校時／4校時

	学習活動	学習内容	指導・支援	時間
導入	1　前時の復習をし、本時の内容につなげる。	○前時でセクシャリティ（性の多様性）について学んだことを振り返る。前回の学習カード①を見ながら、性的マイノリティを表す言葉などについても確認する。	・前時の学習カードを生徒に返す。 ・差別的な発言がないように指導する。 様々な立場から「多様な性」について考えよう。	5
展開	2 性的マイノリティを自認する方のエピソードを読み、考える。	○エピソードを読んで、ワークシートを書く。 ○Q1 が書けたら、ロイロノートで共有する。 ○Q2 も同様に行う。	・資料「トランスジェンダーのエピソード」配布 ・全部読み終えた後に Q1、Q2 に取り組ませる。Q2「あなたは男の子なんだよね」が入る。 ・どんな発言でも否定したりせずに、認め合うことが大切であることを指導する。	35
終末	3 学習のまとめをする。	○本時の感想を書く。数人に発表してもらう。	・感想をグループで発表させ、何人かに全体の場で発表してもらう。	10

第3校時／4校時

	学習活動	学習内容	指導・支援	時間
導入	1　前時の復習をし、本時の内容につなげる。	○前時の学習カードを見て、様々な立場から多様な性について考えたことを振り返る。	・前時の学習カードを生徒に返す。 様々な立場から「多様な性」について考えよう。	5
展開	2　資料１を読み、学習カードに自分の考えを記入する。	○A さん、B さん、C さんの様々な立場からセクシャリティについて考えることを説明する。 ○それぞれの問いに対する自分の考えをグループで共有し、全体の場でも数人に発表してもらう。	・ワークシートを配布 ・差別的な発言がないように指導する。	
	3　資料２を読み、学習カードに自分の考えを記入する。	○それぞれの問いに対する自分の考えをグループで共有し、全体の場でも数人に発表してもらう。	・どんな発言でも否定したりせずに、認め合うことが大切であることを指導する。	
	4　共生社会の実現のために必要なことは何かを考える。	○性的マイノリティの人々が住みやすい社会になるためには、どんなことが必要かを個人で考える。	・調べることはせず、自分で考えることを指示する。 ・自分にできること、社会に求めることなどの視点から考えるように声がけを行う。	
終末	5　学習のまとめをする。	○本時の感想を書く。数人に発表してもらう。	・次回は視点を変え、共生社会を目指すために大切なことについて考えることを伝える。	

第4校時／4校時

	学習活動	学習内容	指導・支援	
導入	1　前時の振り返りを行う、本時のめあてを確認する。	○前時の学習カードを見て、様々な立場から多様な性について考えたことを振り返る。 ○本時は同和問題の視点からも共生社会について考えることを伝える。	・前時の学習カードを配布する。 ・本時の学習カードを配布する。	5
	すべての人が気持ちよく生きることができる社会を目指す上で、大切なことを考えよう。			
展開	2　同和問題に関わる動画を視聴する。(18:06)	○噂やインターネットの情報に惑わされることなく、正しく知ることの大切さを学ぶ。 ○動画を視聴しての感想をワークシートに記入する。	・動画を流す。 Youtube【同和問題　未来に向けて】	20 5
	3　すべての人が気持ちよく生きることのできる社会を目指す上で、大切なことを考える。	○自分の考えをワークシートに記入する。	・調べたりせず、自分の考えを書くように伝える。	10
終末	4　学習のまとめを行う。	○今日までの人権学習を振り返る。 ①自分が他人とは違うと思うことや、他人より劣っているなと悩んだときにどうしていくべきか、②今後の自分がこれからの人生をどう生きるのかを考え、その決意を書く。	・感想だけで終わるのではなく、具体的な場面を想像し、今後の自分がこれからの人生をどう生きるのかという「生きる力」をつけることができるように、しっかりと最後まで書くように促す。	10

5.　授業での生徒の学び

割り当てられた性と自認する性が異なる方がカミングアウトするというエピソードを読み、どこか他人事な事例に対しても「自分だったら…」「身近な出来事だったら…」と考えた。「意外と身近なことだとわかった。自分がこの立場だったら、ちゃんと受け止められるかが心配。」「(カミングアウトを) きっと僕はすぐには受け入れてあげることができないかもしれないし、できるかもしれないしわからない。」と素直にできない自分と向き合う生徒も見られた。

また『同性の友だちであるＤさんから告白されたＥさんに相談を受けたＦさんは「付き合うことはできないけど、これからも友だちでいようって言ってみれば？」と提案しました。あなたならどのように返答しますか。』という問いに対しての生徒の返答が以下である。

・向こうだって勇気を出して告白してくれたんだから、真剣に返事をしてあげるべきだよ、これからどうしたいのかを伝えてあげればいいと思うよ。

・付き合えないって気持ちは、しっかり本人に伝えた方がいいと思う！で、Eはこれから Dとどんな関係でいたい？それがわかるなら自然と答えは出るんじゃない？
・告白を断ってもいいと思う。けど、告白されたときにどう思ったの？嬉しかったなら嬉しかった、と言っても良いと思う。一番は自分のありのままの気持ちを伝えることだと思うよ。

立場や性別、自認する性などに関係なく、それぞれの相手を尊重するような返答が多く見られた。

6. 人権学習の全体を通しての生徒の学び（人権教育講演会での感想）

・ジェンダー体験をしたときにすごく複雑な感情になって、LGBT の人たちは過去にこんなつらい思いをたくさんしていたんだなとすごく苦しい気持ちになりました。カミングアウトはすごく辛いことなので、もし自分にカミングアウトしてくれたら否定的な言葉は言わないで優しい言葉をかけてあげたいと思いました。
・これからは視野を広く持ち、自分の価値観を押し付けないことを意識して生活していきたいです。
・まだ日本では同性結婚は認められていないけれど、世界には認められている国があったり、逆に違法になっていて、最悪死刑になる国もあることがわかったので、世界全体で共生社会を目指していくことが大切だと感じました
・人を「普通」という枠組みに当てはめて考えると、弾かれて悲しい思いをしてしまう人が出てくるけど、その「普通」の枠組みをなくして、おおきな枠組みを作ることで、悲しい思いをする人も出ず、違いを認め合う共生社会になっていくのかなの感じました。なので、自分と人の違いを見つけたら、違うからと言って弾いてしまうということは絶対にしないようにします！
・映像や文章を用いて、後期人権月間で性の多様性について学んできましたが、坂井さんの実体験を聞いてやはり実体験を本人の口から聞くと映像や文章以上に心に来るものがありました。
・身近にこういう演説をしてくださっている人がいることに感謝したいと思いました。
・自分の中の固定観念を疑いみんなが優しい世界になれば良いなと思いました。
・今回の講演を聞いて性別は２つだけではないということを知ることができました。市役所での戸籍や保険証の性別など、まだ性が２つのどちらかしか記入できないところもあると知って、早くみんなの理解が深まって、性別の欄自体がなくなるといいなと思いました。
・カミングアウトにはすごい勇気が必要だということも知りました。自分がカミングアウトしてもらったときにどんな言葉をかければよいのかをしっかり考えていきたいなと思いました。また、心を許してもらえてカミングアウトしてもらえるような存在に自分がなっていきたいなと感じました。

7. 資料

・【Ally Teacher’s Tool Kit】認定 NPO 法人 ReBit より
・【あなたは男の子なんだよね】「季刊セクシュアリティ」７４号（2016 年１月）、エイデル研究所より
・【人権啓発ビデオ　人権アーカイブシリーズ「同和問題　未来に向けて」】法務省公式 Youtube チャンネルより

千曲市立戸倉上山田中学校実践記録　後期人権強調期間から

令和６年度　１学年後期人権教育月間の実践

１．題材名

「渋染一揆」

２．ねらい

差別された人々の百姓と同等の権利を求めた生き方が、差別との闘いであったことを知り、差別解消に向けての展望をもつ。

３．学習内容

学習内容	学習活動	備考
1　前時を振り返り、嘆願書を提出した後、人々が強訴に立ち上がった理由を考える。	①DVD を見て、別段御触書に対し、嘆願書を作成し、提出する中での人々の平等を求める思いがあったことを思い出す。その後の人々の行動を知る。 ②資料を読み、命がけで強訴に立ち上がった理由を考える。(DVD を見ていますが、改めて資料を読んで、考えるとよいかと思います) ＊昔から続いてきた差別に対し、身分解放を目指し、強訴に立ち上がったことに気づかせたい。	DVD「渋染め一揆を闘いぬいた人々」10 分程度 資料３
2　助命嘆願闘争を知る。	①強訴の後、投獄された人々がいたことを知る。 ②投獄された仲間やその家族に対する心遣いや、行動について知る。 ③「人は死んでも名前を天下に残す」とは、被差別部落の人々のどんな思いを表しているのだろうか。	
3　渋染一揆について学んだことや、今日の授業を振り返って感想を書く。		

令和６年度　２学年後期人権教育月間の実践

１．題材名

「その時歴史は動いた　人間は尊敬すべきものだ～全国水平社・差別との闘い～」

２．ねらい

誰に対しても公正、公平に接することの意義を理解し、差別のない社会の実現に努めようとする態度を育てる。

３．学習内容

学習内容	学習活動	備考
1　前時までの学習について振り返り、差別がなくならなかった原因を考え、普段の自分はどうなのか自己を見つめていく。	①　なぜ差別がなくならなかったのか、学習カードなどを見て振り返る。 ②　前回の「私のクラスの水平」アンケート結果をみて書かれた内容について、自分の身近なところにも、良いと思う部分と課題となる部分を確認し、普段の自分の言動を見つめなおす。 ＊差別はだめだと思う自分の心にも弱い部分があるというところに気が付かせたい。	前回の「私のクラスの水平」アンケート結果を一覧にして渡す。
2　被差別部落に生きた一人の女性の生涯を見る。	①　被差別部落に生きた一人の女性の生き方を映像で見る。 ②　自分の体験を文章にすることで、差別をすることで自分をどんなにおとしめるかを世間の人に知ってもらいたいと考えたことを知る。 ③　自分の思いを言葉で残すことの意味について考える。	「その時歴史は動いた　人間は尊敬すべきものだ～全国水平社・差別との闘い～」を７分ほど見る。
3　今までの学習から、これから自分がどう人権と向きあうのか「わたしの水平宣言」にまとめる。	①　水平宣言やアンケート結果をもとに、「私の水平宣言」を書いてみる。 理由も含め自分の言葉で書く。 ＊無意識にある差別する心を意識して、これからの行動を考えていく。	

令和６年度　３学年後期人権教育月間の実践

１．題材名

「あなたの決断　～排除や差別はどのように起こる？～」

２．ねらい

様々な視点にたって考えることで、正しく知って、正しく行動することの大切さや排除や差別を引き起こす背景にあるもの（病気への恐怖や不安など）に気づき、間違った知識、間違った政策が人々を不安にさせ、偏見や差別、排除を生む原因になることを知ろうとする。

３．指導上の留意点

・ロイロノートの共有ノートを使って、グループ内で協同的な学びを通して、グループでそれぞれのシートを完成させていく。

・今回は、共有ノートを使用するので、最初からすべての資料を準備しておくと全員が見ることができる状況になってしまうので、その都度、資料箱からノートにあげるのが望ましい。

４．展開

	学習活動　内容　問いかけ	支援及び留意点
導入 ５ 分	１　後期人権学習の始まりと、これまでの人権学習の振り返り。 ・これまで、どんな学習をしたか？ ・人権学習を進めるための３つの約束 ①　「協力」お互いに学ぶために協力しあう ②　「尊重」それぞれのあり方や意見、思いを尊重する ③　「守秘」ここで出された個人の経験や考えは、この場にとどめる。 ・部落差別の学習の振り返り １年次：部落差別の始まり ２年次：部落差別に立ち向かった人々 ・義務教育最後の人権学習 これから社会に出ていく。 自分の責任で行動していく。 現代にある差別について正しく知る。 社会に生きる一人として、 何ができるのか考える時間とする。 ・学習のまとめ 人権作文	・ファイルやロイロを見ながら、これまで学習した内容（キーワード）を出し合う ・義務教育最後の人権学習であるということをしっかりとおさえる。 ※中学を卒業すると、社会に出る→自分の言葉や行動に責任をもつ ・遠い昔の話、自分とは縁のない話ではなく、人間が作り出した差別、法律をもっても無くなることはなかった差別、そして現代にも残っているという事実があることをおさえる。 ・後期人権学習のゴールを確認
	「分ける」という行為について、改めて考えてみよう。	
展開 ① 30 分	２　本時の内容について確認する。（５分） ・状況カード①を提示 「今から皆さんには、未知の病気が発生した、とういう想定のもと、一国の総理大臣の立場で、その対処を考えてもらいます。」 「これからのグループ活動の内容は、グループごとにシートにまとめていきます。各グループで、司会、記録、発表役を決めてください。」 ３　「隔離するか否か」について、グループで考える。（５分） 「隔離するか否かを決定し、その理由と合わせてシートを完成させてください。」	・資料箱から状況カード①を共有ノートへ。 ・状況カード①を読み上げて内容について全員で確認をする。 ・グループ用シート①を資料箱から共有ノートにあげる。 ・グループの番号を確認して、番号のシートを使用するように指示する。

	４　「する」「しない」と決めた後の不安の声から、不安の内容についてグループで考える。（５分） 「その決定に対して、『不安の声』が出ています。皆さんには、いったい何に不安を感じているのか、『不安の内容』について、様々な角度から出してもらいたいと思います。」 「それぞれ思いついた意見をカード１枚につき１つに記入してください。」 ５　不安の種類を分類しながら、それぞれの不安を解消する手立てをグループで考える。（１０分） 「グループで考えた不安の内容を同じような意見はグループにしてまとめ、それぞれの不安を解消する手立てについて考えてみよう」 「もし、政治家の立場ではなく、自分がこの病気に罹患した患者、またはその家族という立場だったとしたら…、どうすれば不安は解消するか、そんな視点でも考えてみましょう。」 ※グループの話し合いの様子を発表（５分）	・資料箱から状況カード②を共有ノートへ。 ※必要枚数を複製 ・３で「隔離する」と選択したグループには「隔離する」チーム用シートを、「隔離しない」と選択したグループには「隔離しない」チーム用シートを使用するように指示する。 ・「質より量」「批判はしない」を原則にして、様々な角度から、できるだけ意見やアイデアを出すようにする。 ・発表用にシートをまとめながら進めるように指示する。 ・不安に対する具体的なサポートについて考えるように指示する。 ・話し合いが始まって、少し時間がたったところで投げかけてみる。 ・シートをスクリーンに映す。 ※時間が押しているようなら、発表はカットする。
展開② 10分	６　ハンセン病問題の紹介 「必要があって分けたことが、排除、差別につながってしまうことがあります。残念ながら、不適切な分け方のために、つらい思いをしてきた、している人が多くいます。日本で大きな誤りをしてしまった事例を紹介します。」 「様々な情報が簡単に行き交う現代社会においても、過去と同じような差別や排除が起こった事例がありました。」	・「道徳」通常ノートに入る ・資料箱から資料①を配信する。 ・資料を映しながら、ハンセン病問題について説明をする。 ※資料 P2「ハンセン病問題の歩み」 ＜確認したいこと＞ ・今からそう遠くない過去に、このような国をあげての差別が起こっていたということ。 ・今もなお、故郷に帰ることができず、苦しい思いをされている方がいるということ。 ・差別は、国や人の手によってつくられるものであるということ、さらに、そうやってつくられた差別は、簡単に消せないということ。 ・資料箱から資料②を配信 ・資料を映しながら、新型コロナウィルスに関して実際に起こった差別的な事例について思い起こす。
まとめ ５分	７　振り返りを書く。 「社会では、分ける側から『分けること』の正当性がしばしば主張されます。その主張が、人権の視点から見て本当に適切なのか、私たち一人ひとりが考え、判断できるようになることが大切です。」 「『分ける』ことで、その集団の状況をよりよくする手立てとして必要がある場合にのみ、分けることは正当である、と言えるのではないでしょうか。」 「逆に、自分を守るために、分ける集団がより困難な状況におかれるならば、分けることは正当ではないと言えます。」 「忘れてはいけないことは、『分ける』ことは、比較や優劣の評価、決めつけにつながったり、排除や差別を生み出し、それを正当化したりする危うさを含んでいるということです。」	・資料箱から振り返りカードを配信 ・提出箱準備 ・時間に応じて発表、共有。

人権教育実践報告

稲荷山養護学校小学部Ⅱブロック（知的）１・２年生

（1）本時の学習指導案

1　単元名　「ジブリランドへレッツゴー」(集団活動)

2　単元のねらい

・児童にとってなじみのある「ジブリ」の世界にひたりながら、見通しをもって活動に取り組む。
・異学年の友だちとゲームをしたり、運動したりして交流を深める。
・ペアの運動やゲームを通して、友だちと協力して取り組む経験を積む。
・振り返りの時間には、楽しかったことを発表したり、友だちの発表を聞いたりする。

3　留意点

・ペア活動やゲームでは、いろいろな友だちや職員とかかわりあえるようにする。

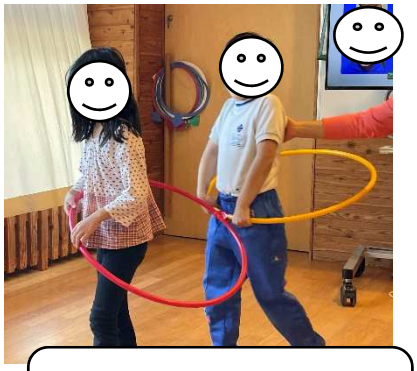
4　本時案

	活動	支援	備考
導入	1　集合・あいさつ 2　活動内容の確認	・視覚スケジュールを掲示し、活動の流れを確認する	iPad、TV 視覚スケジュール
展開	3　ダンス 4　前時の振り返り 5　ペア運動またはゲーム (ペアリレー)	・映像を流す 〇活動への期待感をもつ ・前時の振り返りの映像を流す 〇活動への見通しをもつ ・見本の映像を見せる ・職員がやり方の手本を見せる ・いろいろな友だちとかかわれるようにペアを組む ・ペアがわかるように顔写真を掲示する	♪「さんぽ」 写真または動画 ゲームのアイテム 道具 児童の顔写真
まとめ	6　楽しかった活動を選んで発表する 7　シールをカレンダーに貼る	・楽しかったことが選べるよう活動の写真を提示する ・発表が難しい児童には、職員が「〇〇が楽しかったです」と代弁する。 ・台紙とシールを準備する	iPad カレンダー シール

（２）授業の様子

ペア活動のリレーでは、異学年の友だちとフラフープを持ちながらプレイルームを一周することができた。友だちのペースに合わせて歩くスピードを調節する子もいた。また、TV に自分の顔写真が出るまでその場で座り、順番が来るまで待てるようになってきた。

振り返りの時間には、楽しかった活動を４枚の写真から選んで発表した。発表している友だちの方に体を向けて聞こうとする児童も増えてきた。また、カレンダーの日付にシールを貼ることで、その日の生単の活動の終わりを意識することができた。



フラフープリレー
（ペア活動）

楽しかったことの発表

カレンダーへのシール

（３）成果と課題

児童の興味関心のある題材を中心とし、「活動が楽しい」という経験を積み重ねてきたことで、他者（職員や友だち）とも楽しさを共有しようとする意識が芽生えてきている。友だちのスピードに合わせることや友だちを見たり発表を聞いたりしようとする相手意識も出てきている。

生活単元学習の場だけでなく、日常生活の中で友だちとのかかわりが増えていくためには、継続した指導と教師が場面を捉えて指導していくことが重要であると考える。

令和６年度　小・中・養護学校　人権教育の実践収録

発行年月　令和７年２月
発　　行　千曲市・千曲市教育委員会・千曲市学校職員会
編　　集　千曲市　健康福祉部　人権・男女共同参画課
〒３８７－８５１１　長野県千曲市杭瀬下二丁目１番地
TEL　０２６（２７３）１１１１
FAX　０２６（２７３）８７８７
E-mail：jinken@city.chikuma.lg.jp